

熱中症予防で守る いのちと地域の医療

公益社団法人福岡県医師会

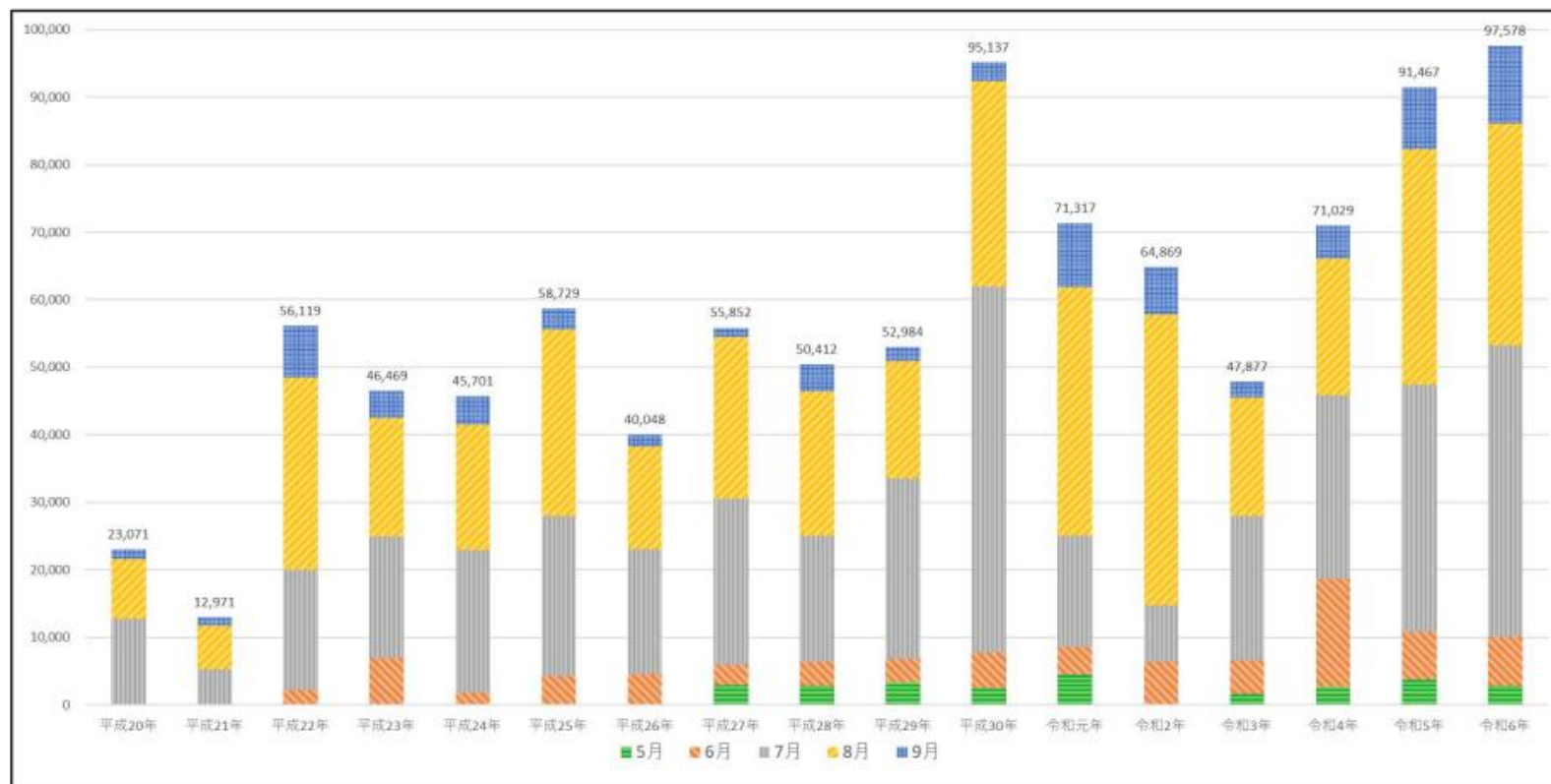
1. 目的
2. 全国の熱中症による救急搬送状況
3. 福岡県の熱中症による救急搬送状況
4. 福岡県の救急搬送の現状
5. 熱中症予防
6. まとめ
7. 参考情報

なぜ今、熱中症予防が必要なのか？

- 今年も厳しい暑さが予想される中、熱中症による健康被害の拡大と医療現場の負担増加が懸念されています。
 - 特に、高齢者や持病のある方は重症化しやすく、早期の予防が重要です。
- ➡ 本会見では、県民の皆さまに
「救急搬送・入院を減らし、地域医療を守る」という視点から
- 熱中症予防の正しい知識と実践方法
 - 家庭や地域でできる予防行動の推進
- について呼びかけることを目的としています。

2. 全国の熱中症による救急搬送状況①

①総数(平成20年～令和6年)

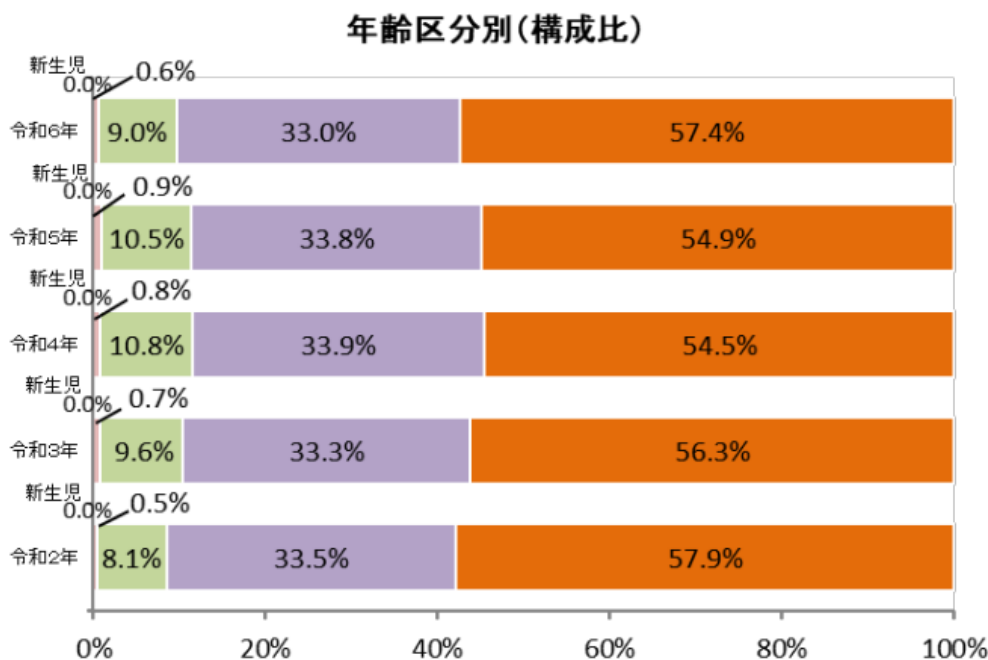


	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
5月	調査データなし						2,904	2,788	3,401	2,427	4,448	調査データなし		1,626	2,668	3,655	2,799
6月	調査データなし		2,276	6,980	1,837	4,265	4,634	3,032	3,558	3,481	5,269	4,151	6,336	4,945	15,969	7,235	7,275
7月	12,747	5,294	17,750	17,963	21,082	23,699	18,407	24,567	18,671	26,702	54,220	16,431	8,388	21,372	27,209	36,549	43,195
8月	8,857	6,495	28,448	17,566	18,573	27,632	15,183	23,925	21,383	17,302	30,410	36,755	43,060	17,579	20,252	34,835	32,806
9月	1,467	1,182	7,645	3,960	4,209	3,133	1,824	1,424	4,012	2,098	2,811	9,532	7,085	2,355	4,931	9,193	11,503
合計	23,071	12,971	56,119	46,469	45,701	58,729	40,048	55,852	50,412	52,984	95,137	71,317	64,869	47,877	71,029	91,467	97,578

(総務省消防庁 令和6年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況より)

2. 全国の熱中症による救急搬送状況②

②年齢区分別況(令和2年～令和6年)



	年齢区分別(人)					
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
令和6年	2	601	8,787	32,222	55,966	97,578
	0.0%	0.6%	9.0%	33.0%	57.4%	100%
令和5年	5	796	9,583	30,910	50,173	91,467
	0.0%	0.9%	10.5%	33.8%	54.9%	100%
令和4年	2	566	7,636	24,100	38,725	71,029
	0.0%	0.8%	10.8%	33.9%	54.5%	100%
令和3年	7	359	4,610	15,959	26,942	47,877
	0.0%	0.7%	9.6%	33.3%	56.3%	100%
令和2年	3	329	5,253	21,756	37,528	64,869
	0.0%	0.5%	8.1%	33.5%	57.9%	100%

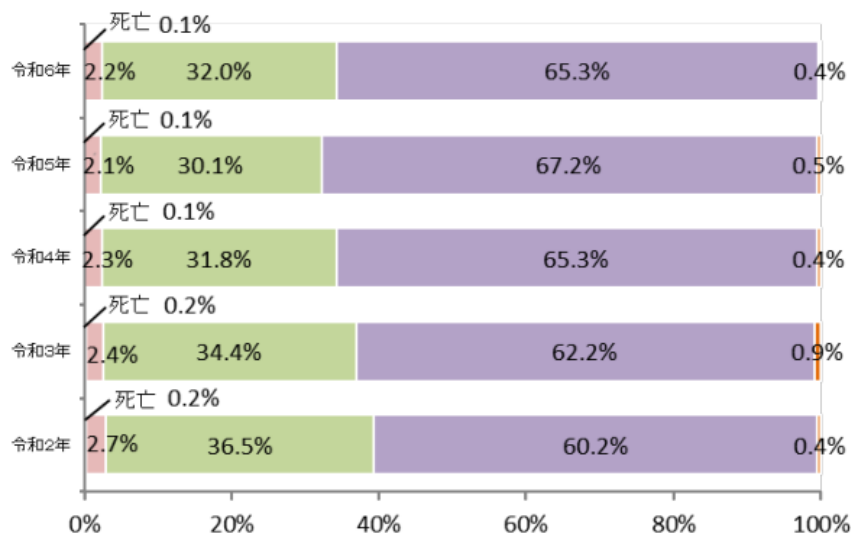
- 新生児: 生後28日未満の者
- 乳幼児: 生後28日以上満7歳未満の者
- 少年: 満7歳以上満18歳未満の者
- 成人: 満18歳以上満65歳未満の者
- 高齢者: 満65歳以上の者

(総務省消防庁 令和6年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況より)

2. 全国の熱中症による救急搬送状況③

③医療機関での初診時における傷病程度別況(令和2年～令和6年)

初診時における傷病程度別(構成比)



	初診時における傷病程度別(人)					
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
令和6年	120	2,178	31,194	63,718	368	97,578
	0.1%	2.2%	32.0%	65.3%	0.4%	100%
令和5年	107	1,889	27,545	61,456	470	91,467
	0.1%	2.1%	30.1%	67.2%	0.5%	100%
令和4年	80	1,633	22,586	46,411	319	71,029
	0.1%	2.3%	31.8%	65.3%	0.4%	100%
令和3年	80	1,143	16,463	29,758	433	47,877
	0.2%	2.4%	34.4%	62.2%	0.9%	100%
令和2年	112	1,783	23,662	39,037	275	64,869
	0.2%	2.7%	36.5%	60.2%	0.4%	100%

- 死 亡 初診時において死亡が確認されたもの
- 重 症 (長期入院) 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中 等 症 (入院診療) 傷病程度が重症または軽症以外のもの

- 軽 症 (外来診療) 傷病程度が入院加療を必要としないもの
- そ の 他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの

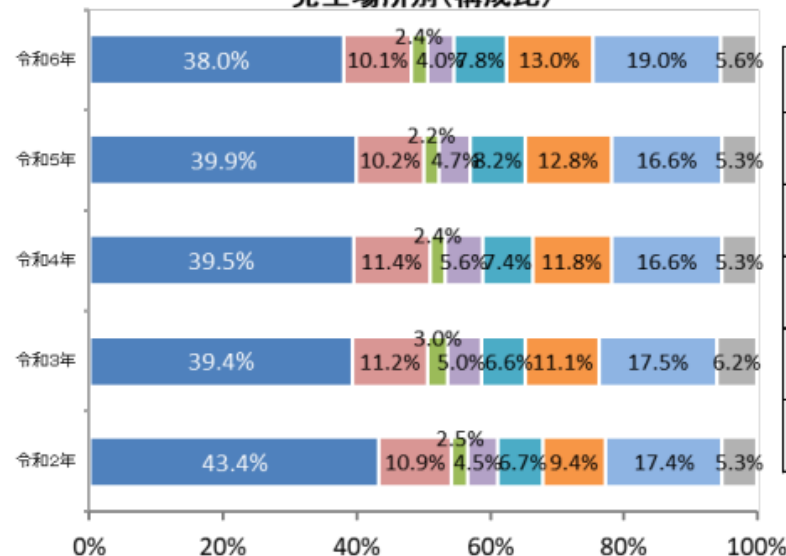
※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

(総務省消防庁 令和6年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況より)

2. 全国の熱中症による救急搬送状況④

④発生場所別(令和2年～令和6年)

発生場所別(構成比)



	発生場所別(人)								
	住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他	合計
令和6年	37,116	9,870	2,332	3,885	7,644	12,727	18,576	5,428	97,578
	38.0%	10.1%	2.4%	4.0%	7.8%	13.0%	19.0%	5.6%	100%
令和5年	36,541	9,324	2,013	4,310	7,497	11,742	15,186	4,854	91,467
	39.9%	10.2%	2.2%	4.7%	8.2%	12.8%	16.6%	5.3%	100%
令和4年	28,064	8,127	1,690	3,975	5,248	8,368	11,807	3,750	71,029
	39.5%	11.4%	2.4%	5.6%	7.4%	11.8%	16.6%	5.3%	100%
令和3年	18,882	5,369	1,421	2,404	3,172	5,298	8,378	2,953	47,877
	39.4%	11.2%	3.0%	5.0%	6.6%	11.1%	17.5%	6.2%	100%
令和2年	28,121	7,065	1,599	2,901	4,340	6,130	11,276	3,437	64,869
	43.4%	10.9%	2.5%	4.5%	6.7%	9.4%	17.4%	5.3%	100%

■ 住 居 (敷地内全ての場所を含む)

■ 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)

■ 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)

■ 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)

■ 公衆(屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)

■ 公衆(屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)

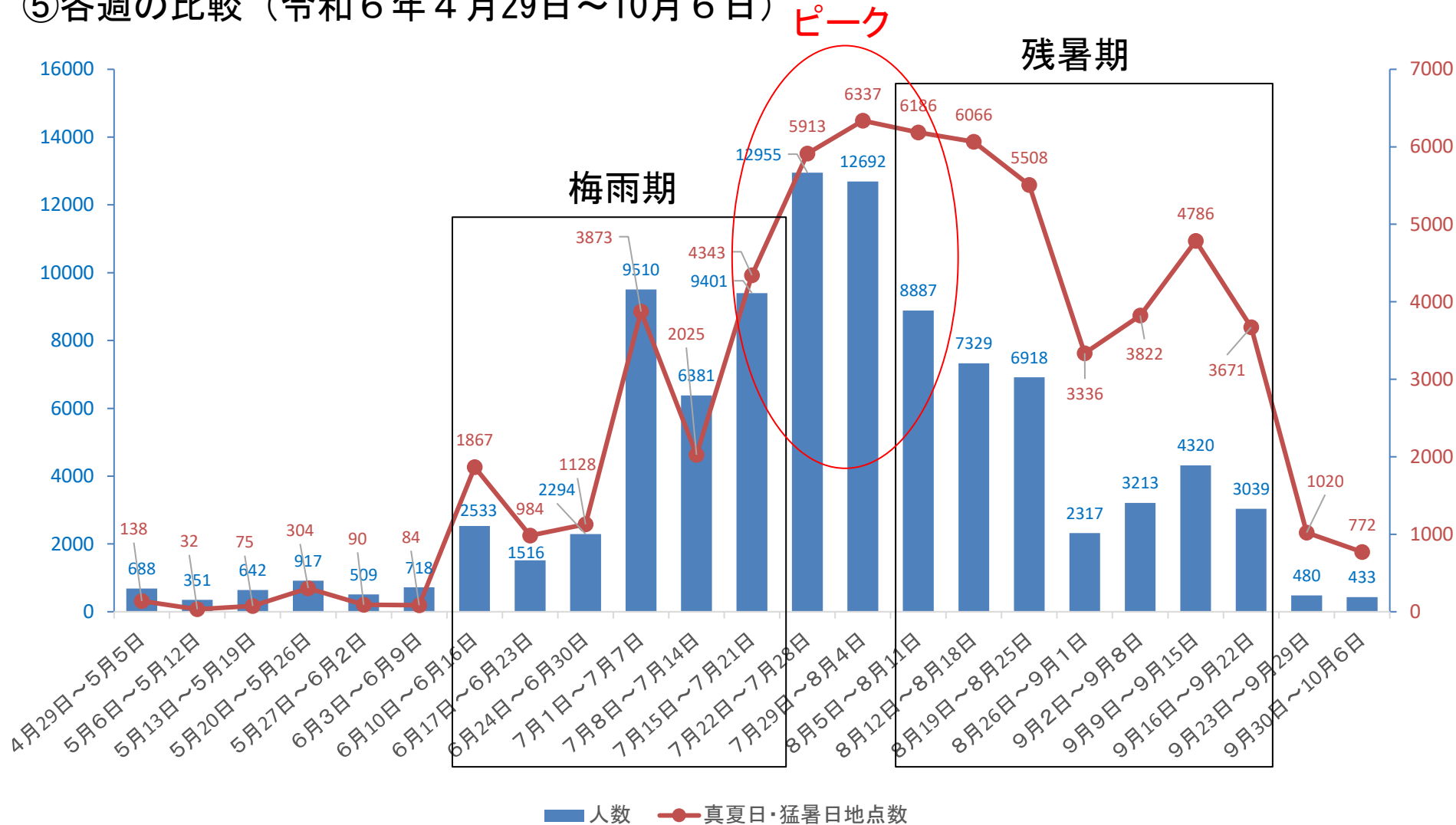
■ 道 路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)

■ そ の 他 (上記に該当しない項目)

(総務省消防庁 令和6年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況より)

2. 全国の熱中症による救急搬送状況⑤

⑤各週の比較（令和6年4月29日～10月6日）

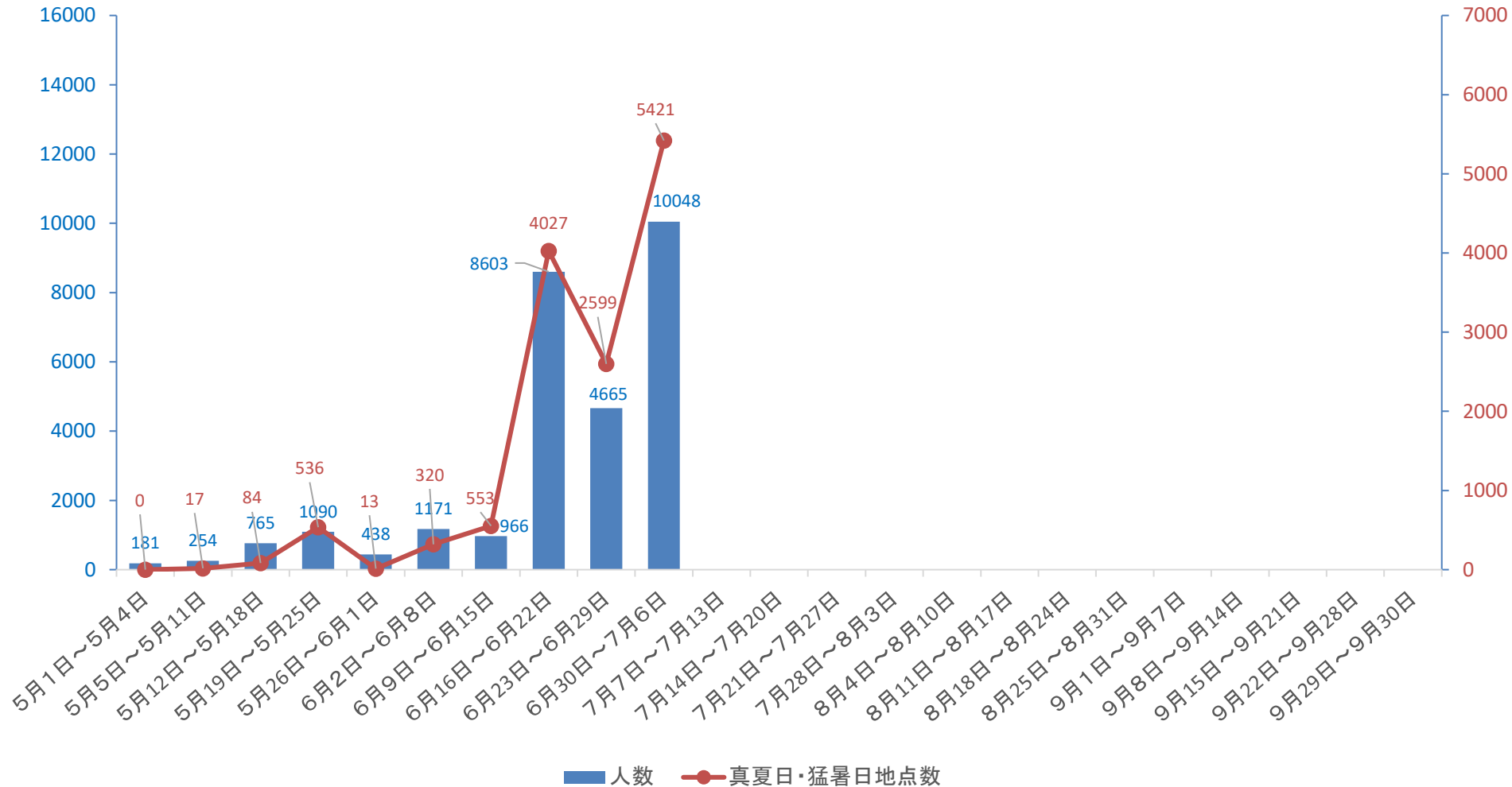


（総務省消防庁 令和6年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況より）

（国土交通省気象庁 真夏日・猛暑日となった観測地点数（2024年5月～2024年10月 日ごと）より）

2. 全国の熱中症による救急搬送状況⑥

⑥週別推移(令和7年速報値)

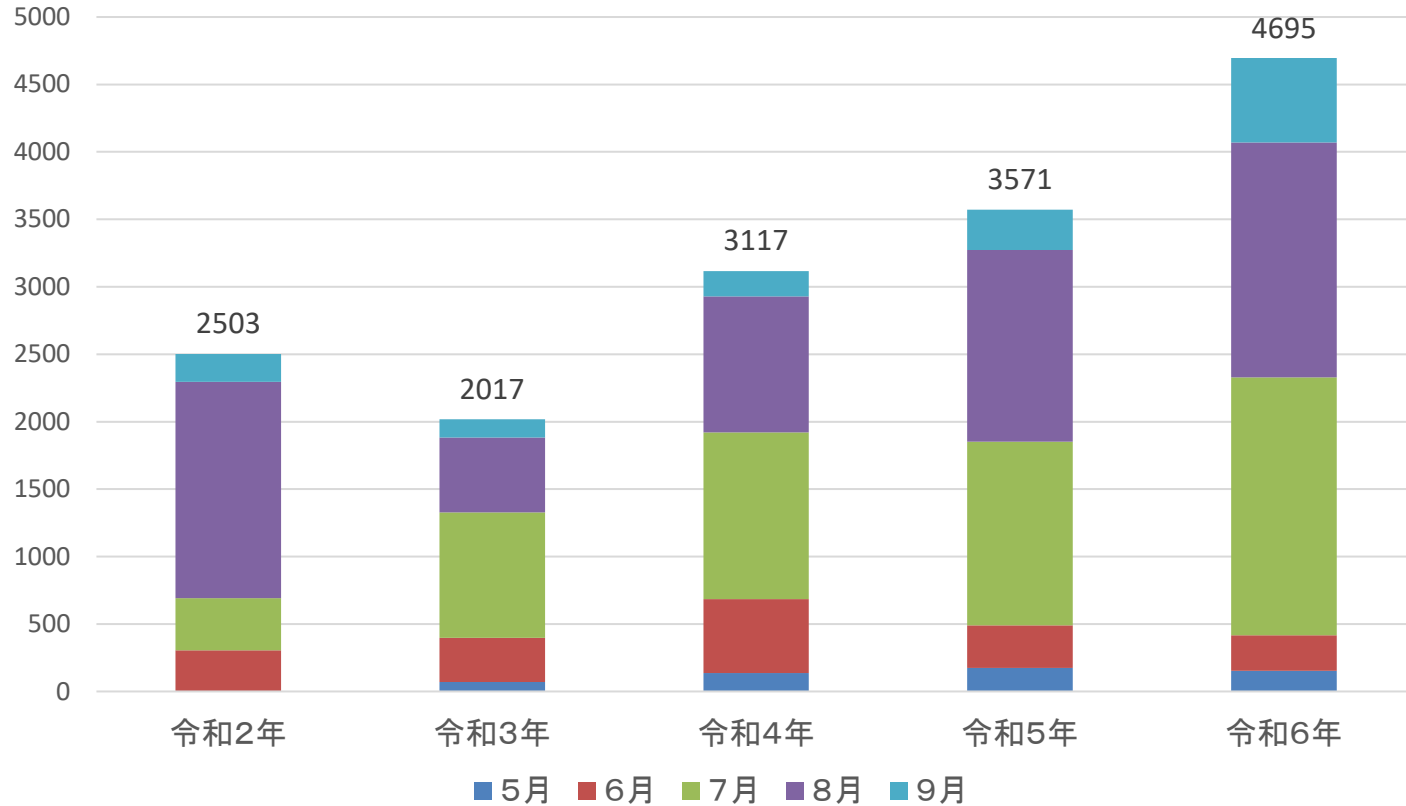


※ 5月26日～7月6日は速報値のため、後日修正されることもあります。

(総務省消防庁 熱中症による救急搬送人員(6月30日～7月6日速報値)より)
(国土交通省気象庁 2025年5月からの真夏日などの地点数 より)

3. 福岡県の熱中症による救急搬送状況①

①総数(令和2年～令和6年)



	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
5月	調査データなし	71	137	174
6月	306	327	547	315
7月	386	929	1,237	1,364
8月	1,604	555	1,007	1,419
9月	207	135	189	299
合計	2,503	2,017	3,117	3,571

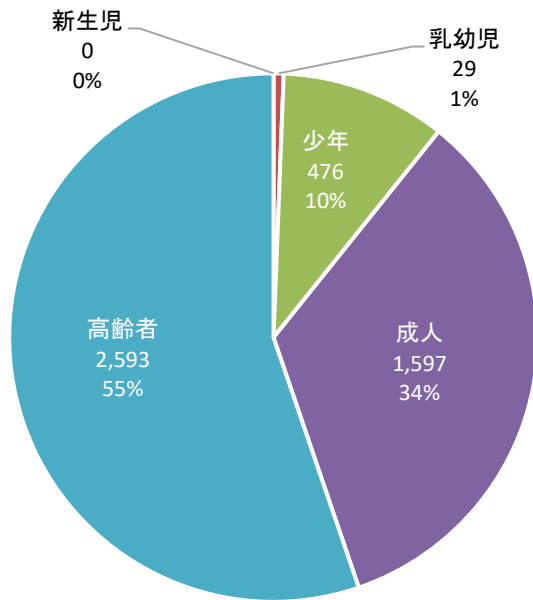
(総務省消防庁 令和6年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況より)

Fukuoka medical association

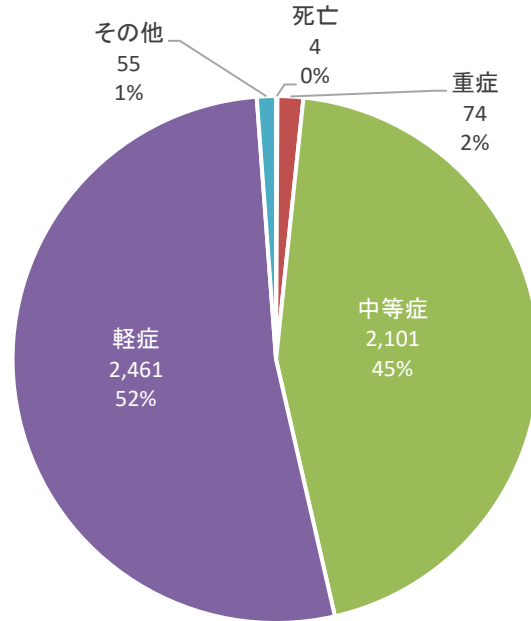


3. 福岡県の熱中症による救急搬送状況②

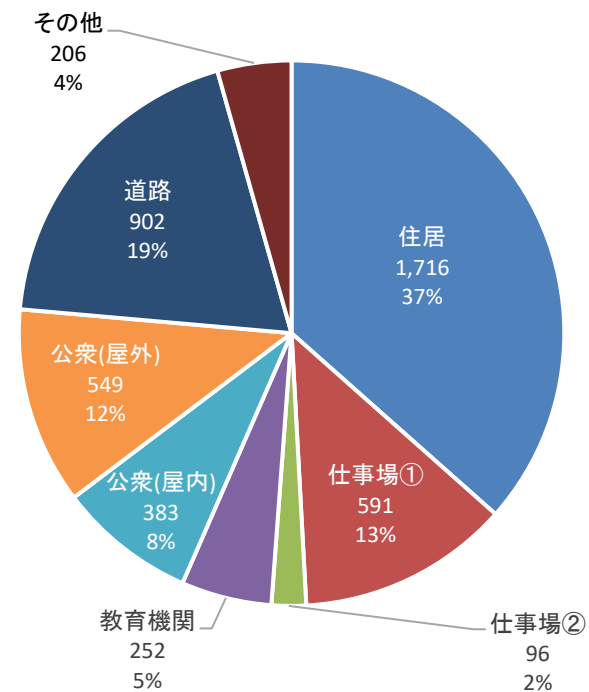
②年齢区分別
(構成比)



③初診時における傷病程度別
(構成比)



④発生場所別
(構成比)



新生児 生後28日未満の者
乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
少年 満7歳以上満18歳未満の者
成人 満18歳以上満65歳未満の者
高齢者 満65歳以上の者

死亡 初診時において死亡が確認されたもの
重症 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
(長期入院)
中等症 傷病程度が重症または軽症以外のもの
(入院診療)
軽症 傷病程度が入院加療を必要としないもの
(外来診療)
その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、
その他の場所へ搬送したもの
※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症
の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要
だった者も含まれる。

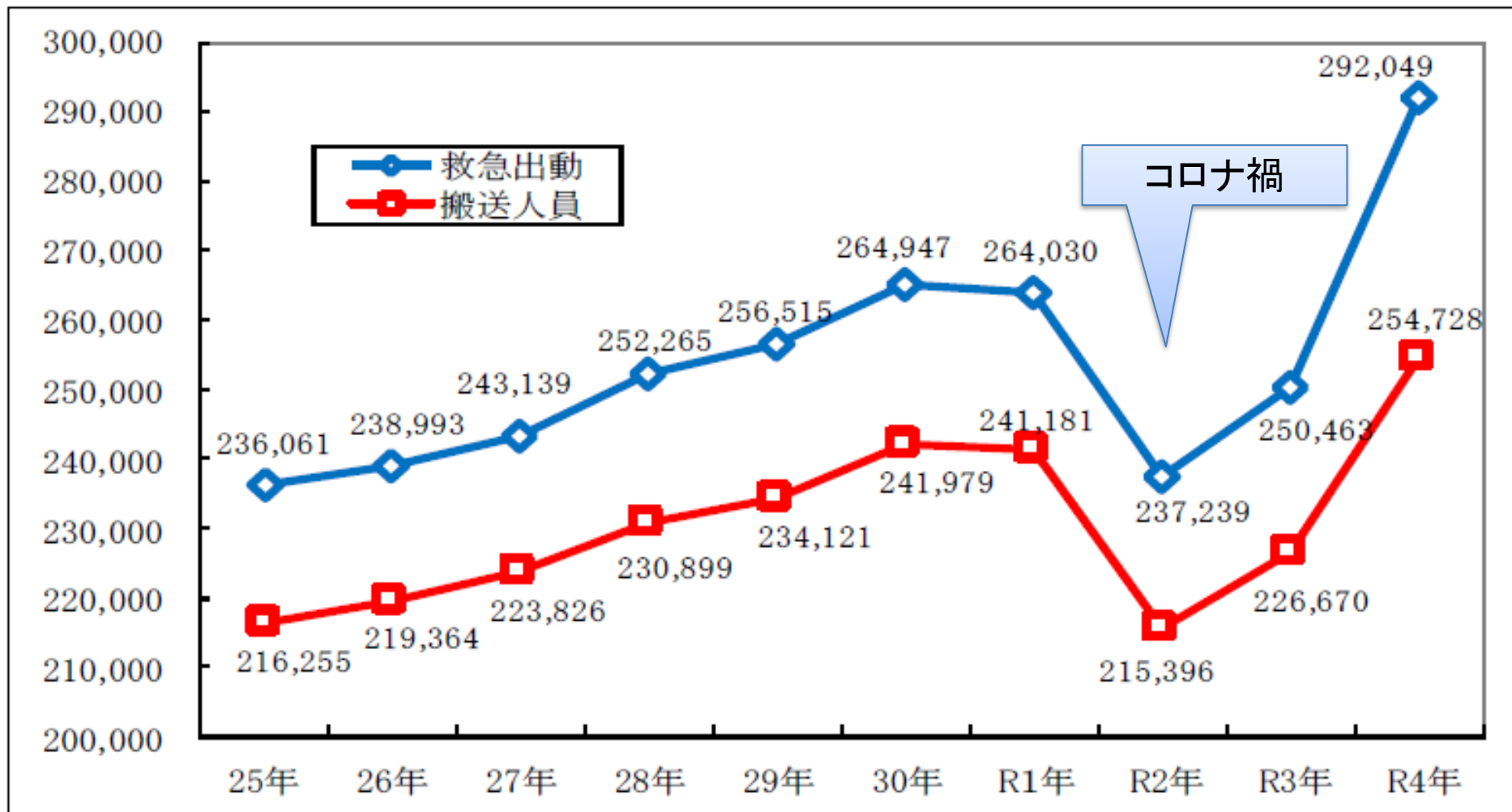
住居 (敷地内全ての場所を含む)
仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)
仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
公衆(屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分(劇場、コンサート会場、
飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
公衆(屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分
(競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外
ホーム)等)
道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
その他 (上記に該当しない項目)

令和6年度

総搬送人員 4,695人

4. 福岡県の救急搬送の現状

救急搬送の60%は高齢者



(福岡県傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準 (令和7年2月変更) より)

- ①一番の予防策は、気温・湿度の高い所に長く居ないこと
- ②猛暑日（気温35 度以上）には外での運動や作業を控える
- ③こまめに水分を取る
- ④室内でも高温環境に注意する

5. 熱中症予防②



熱中症が増えています

予防のためのポイント



熱中症警戒アラートを活用しましょう

アラート発表時には、

- のどが渇く前に水分・塩分を補給しましょう
- エアコンを適切に使用しましょう
- 高齢者等に声を掛けましょう
- 不要不急の外出は避けましょう
- 暑さ指数に応じて、外での運動は、原則、中止/延期をしましょう



「熱中症警戒アラート」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます。

友達追加はこちら



エアコンをしっかりと使いましょう

熱中症は室内でも夜でも発生し、命に関わる問題です

- 無理な節電をせず、夜もしっかり使用しましょう
- 日中はすだれなどで日差しを和らげるなど上手に使いましょう



注意! 停電時など、どうしてもエアコンが使えないときには

- 日光を遮り、風通しをよくしましょう
- 濡れたタオル等を肌に当て、うちわであおぎましょう
- できる限り、冷房設備が稼働しているところへ避難しましょう
- 停電時の断水に備え、飲み水を備蓄しましょう
- 電力需給ひっ迫時には、浴槽やバケツに水を貯めておきましょう



政府の熱中症対策

熱中症予防情報サイト: 熱中症警戒アラート・暑さ指数・熱中症予防に関する情報



高齢者等の屋内における熱中症対策の強化

高齢者のための熱中症対策



(リーフレット)

管理者がいる場等における熱中症対策の促進

学校関係の熱中症情報



農作業中の熱中症対策



スポーツの熱中症対策



防災における熱中症対策



(リーフレット)

学ぼう! 備えよう! 職場の仲間を守ろう! 職場における熱中症予防情報



災害時情報提供アプリ「Safety tips」



For Android

For iPhone

地域における連携強化

熱中症に関連する気象情報



夏季における熱中症による救急搬送状況



健康・医療関係の熱中症情報



その他

エアコンの早期の試運転について



ヒートアイランド対策



無理のない省エネ生活



マイボトルで熱中症予防を!



内閣府

こども家庭庁

消防庁

文部科学省

スポーツ庁

厚生労働省

農林水産省

経済産業省

国土交通省

観光庁

気象庁

環境省

5. 熱中症予防③

高齢者のための熱中症対策

熱中症の予防には、水分補給と暑さを避けることが大切です



部屋の中でも注意が必要です

エアコンを上手に使いましょう

熱中症は、室内や夜間でも多く発生しています。節電にも配慮して適切にエアコンを使いましょう。

また、エアコン使用中にもこまめに換気をしましょう。

こまめにフィルターのお手入れをする
2週間に1回を目安にしましょう

適切な室温設定

すだれやカーテンを活用し直射日光を遮る

温度・暑さ指数を確認する

換気をして屋外の涼しい空気を入れる

窓とドアなど2カ所を開ける

扇風機や換気扇を併用する
長時間、風が体に直接あたらないように注意しましょう

クールビズを取り入れる

複数台の使用を避け、一部屋に集まるなど工夫する

さらに 気をつけるべきポイント

のどが渇いていなくても **こまめに水分・塩分を補給しましょう**

1日あたり
1.2L(1.2リットル)を目安に



コップ約6杯

● 1時間ごとにコップ1杯

● 入浴前後や起床後も

まず水分・塩分補給を

※水分や塩分の摂取量はかかりつけ医の指示に従いましょう。



！高齢者は特に注意が必要です

1 体内の水分が不足しがちです

高齢者は若年者よりも体内の水分量が少ない上、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。

2 暑さに対する感覚機能が低下しています

加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。

3 暑さに対する体の調節機能が低下します

高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

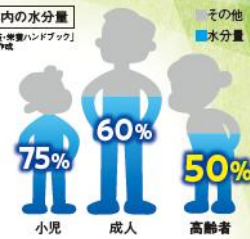
※心臓や腎臓の悪い方や持病をお持ちの方は、かかりつけの医師にご相談下さい。

● 東京都23区における熱中症死者の状況(令和3年度)

※計39人(道庁調べ)のうち

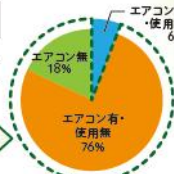
約8割は65歳以上の高齢者 屋内での死亡者のうち約9割はエアコンを使用していなかった

体内の水分量
【調査・実証ハンドブック】より作成



エアコン設置有無・使用状況別
※内：東京都道庁発表資料

■ エアコン有・使用有
■ エアコン有・使用無
■ エアコン無



☑ 予防法ができているかをチェックしましょう

☐ エアコン・扇風機を上手に使用している



☐ 部屋の温度を測っている



☐ 部屋の風通しを良くしている



☐ こまめに水分・塩分を補給している



☐ シャワーやタオルで体を冷やす



☐ 暑い時は無理をしない



☐ 涼しい服装をしている
外出時には日傘・帽子



☐ 涼しい場所・施設を利用する



☐ 緊急時・困った時の連絡先を確認している



環境省 熱中症予防情報サイトからの情報をチェック！ ▶ <https://www.wbgt.env.go.jp/>

環境省では、暑さ指数(WBGT)の情報提供を行っています。令和3年度より全国展開している熱中症警戒アラートおよび、暑さ指数のメール配信等をご活用ください。

「熱中症警戒アラート」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます▶



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

環境省
Ministry of the Environment

2023年5月版



参考URL

- ① 環境省「熱中症予防情報サイト」

<https://www.wbgt.env.go.jp/>



- ② 環境省「熱中症予防情報サイト 普及啓発資料」

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php



- ③ 福岡県「熱中症に気をつけましょう！」

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/netu.html>



- 熱中症は、予防が非常に重要とされています。
- 高齢者や持病のある方は特に注意が必要です。
- 予防行動の徹底が、
 - ➡救急搬送の減少
 - ➡医療現場の負担軽減につながります。

この夏、あなたの行動がいのちと地域の医療を守ります

何でも相談できる「**かかりつけ医**」をもちましょう。

- 質の高い医療を効率的に提供できるように、医療機関はその機能に応じた役割分担がされています。
- 軽症の病気やけがの場合には身近な医療機関（診療所等）にご相談いただくことが重要ですが、「大きな医療機関の方が安心だから」といった理由で、軽症の患者さんが大きな医療機関（病院等）に集中すると、そこで勤務する医師や医療機関で働くスタッフの負担を増やすことにもつながります。
- まずは、日頃の状態をよく知っていて、健康のことを何でも相談でき、身近で頼りになる「**かかりつけ医**」を持つようにしましょう。

（厚生労働省「[医師の働き方改革](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku_00001.html)」.jpより）

交通手段が充実していて、医療機関のスタッフが揃い、検査・治療が十分に行える**日中の診療時間内**にできるだけ受診しましょう。

- 「平日の昼に行く時間がないから」といった理由で、夜間や休日などの診療時間外に緊急性のない受診をすることは、「**コンビニ受診**」とも言われ、医師など医療機関で働くスタッフの負担を増やすことにつながり、提供される医療の質の低下を招くものとして懸念されています。
- 普段から**決められた診療時間内での受診**にご協力をお願いします。

(厚生労働省「[医師の働き方改革](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku_00001.html)」.jpより)

「今すぐ救急車を呼ぶか」、「今すぐ医療機関に行った方が良いか」迷ったときは、
救急医療電話相談(＃7119)をご活用ください。

救急医療電話相談(＃7119)

県民の皆さんからの急な病気やケガに関する相談に対し、看護師が、医療機関受診の緊急度などについてアドバイスをを行います。

【受付時間】 24時間365日(年中無休)

【電話番号】 ＃7119(短縮ダイヤル) 又は 092-471-0099

休日・夜間のこどもの急な病気やけがは、
小児救急医療電話相談（#8000）をご活用ください。

小児救急医療電話相談（#8000）

子どもの急な病気（発熱、下痢、嘔吐、けいれん等）やケガに関する相談について、小児医療の経験を持つ看護師がアドバイスする休日夜間の電話相談です。

【受付時間】 24時間365日（年中無休）

【電話番号】 #8000（短縮ダイヤル） 又は 092-731-4119

小児救急医療ガイドブック

子どもの発熱や嘔吐など、主な症状別の対処方法、家庭での対応、よくある質問などをまとめたガイドブックです。



小児救急医療ガイドブックQRコード

福岡県救急の日のつどい2025 (「健康21世紀福岡県大会」との合同開催)

 日 時: 令和7年(2025年)9月14日(日)10:00~16:00

 会 場: 久留米シティプラザ 六角堂広場
(久留米市六ツ門町8-1)

 入場無料

救急・健康に関する啓発ブースや体験型イベントを予定しています。
ぜひご来場ください。